

小中一貫校整備事業に係る（仮称）川柳学園建設・解体説明会質疑回答

- 1) 実施日 : 令和6年4月17日（水） 午後6時30分～
令和6年4月27日（土） 午前10時00分～
- 2) 会場 : 南中学校3階多目的室
- 3) 参加人数 : 9名（総数）
- 4) 質疑件数 : 16件
 - （内訳）（1）家屋調査に関すること : 4件
 - （2）搬出入経路に関すること : 5件
 - （3）工事全般に関すること : 3件
 - （4）部活動対応に関すること : 1件
 - （5）児童生徒の対応に関すること : 1件
 - （6）その他に関すること : 2件

(仮称)川柳学園建設・解体説明会 質疑回答内容

	質問	回答	項目内容
1	搬出入経路に関することだが、この経路に小中学校の通学路はあたっていないのか。	学校周囲の経路となっているため、通学路にあたっていないということはない。搬出入については、子どもたちの登校時間帯に通行しないよう車両通行の制限をかける配慮を行っていく。	搬出入経路に関すること
2	搬出入の出入口を1か所に行っているのは、解体工事から建設工事まで同じであることは理解した。工事車両等は中学生が登校する正門側は通行しないということによろしいか。	そのとおりである。工事車両、作業員の車両も含めて、1か所の出入口で行っていく。	搬出入経路に関すること
3	我が家が家屋調査の対象となっている。ご近所にも家があるが、何故我が家が調査対象となっているのか。	本計画では、工事範囲が全体敷地に対して西側に校舎建設を行っていくものであることから、隣接している西側を中心に居住されている方々に対して調査を行うものである。	家屋調査に関すること
4	調査を行うということであれば、家族が居るときに行ってもらいたい。	調査日程については、別途、相談させていただきたい。	家屋調査に関すること
5	家屋調査についてであるが、具体的にどのような調査を行うのか。また、事後調査を行うということだが、詳しく説明いただきたい。	家屋調査は、建設・解体工事によって家屋に影響が出たかどうかを確認するための調査となる。事前調査は家屋を写真撮影するとともに家屋の状態を確認させていただく。なお、この調査は工事を行う前に第三者の調査会社に依頼して行われるものである。事後調査であるが、工事終了後に再度同じ箇所の写真撮影等を行い、亀裂や破損等について、確認させていただく。仮に工事による要因で亀裂や破損が生じた場合には、事業者側にて修繕させていただくことになる。	家屋調査に関すること
6	搬出入経路についてであるが、レイクタウン側から車両が入ってくる計画となっている。中学校の南側道路は狭いがどのくらいの車両が入ってくる想定なのか。	車両はダンプや生コン車等、およそ10トン車程度の車両が入る予定である。	搬出入経路に関すること
7	出入口に交通整理員を配置するとのことだが、十分な対応ができるのか。出入口部分において10トン車でも通行可能か検証は行ったのか。	道路幅についても確認を行っている。また、出入口幅を10メートルに設定しているので、杭打ち重機も入ることができると想定している。	搬出入経路に関すること
8	経路に関することだが、車両はJ R武蔵野線の南側を経路として通行することになっている。この経路では、左折しかできない場所を通行することになるがどのように考えているのか。	レイクタウン側から入ってくるときは、右折ができないため南側から北上し左折して建設現場に向かう経路としている。	搬出入経路に関すること
9	学校周辺の住民の方々に対し、個々に説明があるのか。	家屋調査を実施することを周知するため、それぞれ着工前に周辺に居住されている方々に対し訪問させていただく。	家屋調査に関すること
10	教育委員会では素晴らしい学校ができるとメリットの部分を言っているが、必ずデメリットの部分も出てくるだろう。そのようなデメリットの部分について、しっかりと対応していただきたい。子どもたちや教職員の意見をしっかりと聞いていただきたい。	デメリットについて対応いただきたいという要望であるが、これまでも学校長と連携を図りながら様々な事項について取り組んできたところである。今後においても、学校や地元自治会、PTA等の方と3者が連携した地域準備会という組織があることから、様々なご意見を伺いながら対応してまいりたい。	その他に関すること
11	(仮称)蒲生学園、(仮称)川柳学園の建設が終了したのち、全市的に小中一貫校を整備していく意向があるのか、どのように考えているのか教えていただきたい。	本市の児童生徒数については、微減という状況であり学級数が減少していかないという実態もある。学校を統合していくということに関しては、注意深い見ていく必要があることから、すぐに統合するということにはなっていない。児童生徒数や学校施設の関係もあり、教育委員会だけでは解決できないものでもあることから、越谷市全体の問題として取り組んでいく必要があると考えている。	その他に関すること
12	野球のバックネットが仮囲いの中に入っているが、今後工事を行う際には、バックネットを新設してもらえるのか。	部活動等の対応についてであるが、建設工事中は現在ソフトボール部が使用している移動式のバックネットを野球部のバックネットとして使用しようと考えている。なお、ソフトボール部のバックネットについては、少年野球で使用しているものを活用していく予定である。	部活動対応に関すること

（仮称）川柳学園建設・解体説明会 質疑回答内容

13	工事を行うための車両の数はどの程度を想定しているのか。	工事車両の台数ですが、1日あたり300mの生コンクリートを使用することになると思うので、台数としては80台程度の車両が運搬する換算となっている。また、土砂を運び出すダンプカーが1日あたり50台程度となる換算をしている。しかしながら、工事が進捗することで、車両台数も減少してくるので、1日あたりの台数も数台程度になる予定である。	工事全般に関すること
14	資料に騒音振動対策という項目に「出来る限り騒音・振動の少ない工法」などと記載されているが、具体的な数値が示されていない。これは、誰がどのように決めるのか教えていただきたい。	騒音振動計を掲示させていただくが、規定値内で工事を行っていく予定である。規定値外となると法律違反となるので、75dBから80dBの範囲内で工事を進めていく予定である。また、工事に使用する機械については、低騒音型を重機を使用していく。本事業で柔剣道場を解体するが、解体の際には、足場に防音パネルを設置し、近隣住民に迷惑がかからないよう対応していく。	工事全般に関すること
15	住民の方がこの工事について、疑問や要望等がある場合の窓口は何処になるのか。	近隣の皆様からご要望等がありましたら、現場監督にて対応させていただく。騒音振動計を掲示しているところに現場事務所の連絡先を掲出しているので、直接申し出いただきたい。当然、市に連絡いただいても結構であるが、現場事務所が一番近い場所となるので、速やかな対応ができると思われる。	工事全般に関すること
16	本事業は、大人が中心に考えている事業であると考えている。児童生徒がこの工事についての困りごと等があった場合、そのような意見をどのように取り扱っていくのかを伺いたい。	子どもたちが不安にならないように、万全な策を講じることが第一であると思う。一例を申し上げますと、子どもたちの登下校については、通学班会議というものを月1回行っていることから、子どもたちの不安視していることを吸い上げることもできる。また、本説明会の資料についても教職員の中で情報共有するという事もできる。教職員である大人が子どもの視点に立った取り組みを進めることが大切であると考えている。	児童生徒の対応に関すること